

2013年度政治思想学会
シンポジウム

「近代科学の成立と
政治思想」

コメント

田中拓道(一橋大学)

コメント

**趣旨：「社会科学」成立の意味を
問いなおす**

**→ 今日の私たちにとって、社会
科学的な知はいかなる意味
を持ちうるか？**

コメント

・古代以来の理論と実践の二分法という通説

古代：テオリアとプラクシスの対比

⇔ 近代哲学：自然科学による実践の浸食

～ 19世紀後半の自然科学と精神科学の分離(新カント派)

→ **20世紀**哲学の一潮流

解釈学・現象学 ～ ハイデガー
～ アレント、ハバーマス

道具的理性の支配による生活
世界の解体という問題意識

コメント

- ⇔ しかし、**科学的知**（その応用としての技術知）と**実践**（コミュニケーション）という二分法は妥当か？
- ～ 18-19世紀「社会科学」成立をめぐる多様な模索を過度に単純化していないか？

コメント

- ・歴史的コンテクストの中で社会科学の意味を問いなおす

→ 二つの論点

(1)社会現象において普遍的な一般法則は成り立つか？

(2)社会的統治の技術art socialと、個人の生の技法art de vieの区別

(1) 社会現象において**普遍的な一般法則**は成り立つか？

- ・ 数学への信頼と懐疑 (ダランベール、
ビュフォン、コンドルセ)
- ・ 自然法則 → 社会法則 (政治経済学)
- ⇔ **個別領域**の知の蓄積 (社会経済学)
- ～ 分類と限定的因果性

(2)社会的**統治の技術**art socialと、 個人の**生の技法**art de vieの区別

- ・一般法則の認識
→ 社会的統治の技法 (テクノ・クラシー)
- ・個別領域での蓋然的知の蓄積
→ 個人のよりよき生の技法

・各報告への問題提起

(1) 森川報告

- ・古代／デカルト→20世紀(ハイデガー、アレント)という歴史像の飛躍
- ・**科学技術と討議**という(ハバーマスの)二分法をどう相対化するか？

(2)川出報告

・なぜ18世紀後半のscience nouvelle
の中でルソーを扱うか？

「**一般性**」と「**透明**」な知の重視
(多義的な)「公論」に対する(単一
の)「公共精神」の優位？

→ 社会の「不透明さ」への認識は？

(3)安西報告

「サイエンス」を踏まえた上での
「アート」習得という福沢の立場(14頁)

→ 両者の結びつけ方とは？

cf. ギゾー「自由検討」→「理性主権」

⇔ 福沢の学者職分論